

初心者が最初に知っておきたい

Kindle出版の流れを全部見せます

「Kindle出版をしてみたい」

そう思って調べ始めたものの、

「結局、何から始めればいいのかわからない」

「原稿を先に書くのか、タイトルを先に決めるのか迷う」

「表紙やAmazonの登録まで考えると、急に難しく感じる」

このような状態になっていませんか？

Kindle出版は、作業を一つずつ見れば、それほど難しいものではありません。

ただし、出版までにはいくつかの工程があります。

その全体像を知らないまま始めると、途中で迷いやすくなります。

実際、Kindle出版に挑戦している方からは、

「原稿は書き始めたけれど、何を伝えたい本かわからなくなった」

「タイトルは決まったけれど、内容がまとまらない」

「原稿は完成したのに、そのあと何をすればいいかわからない」

という相談をよく受けます。

これは、文章力が足りないからではありません。

出版までの順番が見えていないまま、目の前の作業から始めてしまったことが原因です。

Kindle出版は、いきなり原稿を書けば完成するものではありません。

本のテーマを決める。

誰に読んでほしいかを考える。

本を読んだあと、どんな変化を届けたいかを決める。

そのうえで構成を作り、原稿を書き、表紙を準備し、Amazonに登録します。

今回は、Kindle出版を初めて行う方に向けて、出版までの全体的な流れを紹介します。

最初に地図を見ておくことで、
「今、自分はどの段階にいるのか」
「次に何をすればいいのか」
がわかるようになります。

Kindle出版は、大きく8つの工程に分けられる

Kindle出版は、次の8つの工程に分けるとわかりやすくなります。

1. 本のテーマを決める
2. 読者を決める
3. 本を読んだあとの変化を決める
4. タイトルと構成を作る
5. 原稿を書く
6. 原稿と表紙を仕上げる
7. Amazonに登録する
8. 出版後に告知する

一つひとつは、それほど特別な作業ではありません。

ただし、順番を間違えたり、それぞれを曖昧にしたまま進めたりすると、途中で原稿の方向がわからなくなります。

特に初心者が気をつけたいのは、いきなり原稿から書き始めないことです。

「本を出すなら、まず文章を書かないといけない」

と考える方は多いです。

もちろん、最終的には原稿を書く必要があります。

ですが、その前に、

「誰に、何を伝え、読後にどうなってほしいのか」

を決める必要があります。

この土台があるかどうかで、その後の進み方は大きく変わります。

原稿を書き始める前に決めたい3つのこと

Kindle出版を始めるとき、最低限考えておきたいことが3つあります。

1. 誰に読んでほしいのか

「Kindle出版に興味がある人」

だけでは、読者像が広すぎます。

同じKindle出版初心者でも、

- 文章を書くことに自信がない人
- 自分には書ける経験がないと思っている人
- 原稿を書き始めたけれど止まっている人
- 副業として出版してみたい人
- 自分の活動を知ってもらうために本を出したい人

では、必要な内容が変わります。

読者が変われば、使う言葉も、説明の深さも、入れる具体例も変わります。

2. 何を伝えるのか

一冊の本に、自分が知っていることをすべて入れる必要はありません。

むしろ、最初の一冊では内容を絞ることが大切です。

たとえば、

「副業について書く」

では範囲が広すぎます。

「40代会社員が、平日30分から初めての副業を始める方法」

まで絞ると、伝える内容が見えやすくなります。

3. 読者にどうなってほしいのか

本を読み終えた読者に、どんな変化を届けたいのかも考えます。

「Kindle出版のことがわかる」

だけでは、少し曖昧です。

たとえば、

「自分の本のテーマを決め、出版までの流れを理解し、最初の原稿を書き始められる」

とすると、本のゴールが具体的にになります。

ゴールが決まれば、必要な内容と、今回は入れなくてもよい内容を分けられます。

Kindle出版は、原稿以外の準備も多い

Kindle出版というと、原稿を書く作業ばかりを想像するかもしれません。

ですが、実際には原稿以外にも準備するものがあります。

- 本のタイトル
- サブタイトル
- 著者名
- 表紙
- Amazonの商品説明
- 検索キーワード
- カテゴリー
- 販売価格
- 出版後の告知文

原稿が完成してから、初めてこれらの存在に気づく方もいます。

すると、

「原稿はできたのに、出版できない」

という状態になります。

だからこそ、最初に全体像を知っておくことが大切です。

今すぐすべてを用意する必要はありません。

ただ、

「あとで、この準備が必要になる」

と知っているだけでも、心の余裕が生まれます。

出版までの流れを知ると、不安が小さくなる

初めてKindle出版に挑戦するときは、わからないことだらけです。

何文字書けばいいのか。

表紙はどう作るのか。

Amazonへの登録は難しくないのか。

間違えて出版してしまわないか。

こうした不安が重なると、始める前から難しく感じてしまいます。

しかし、出版までの工程を分けて考えると、

「今日はテーマを考える」

「次は読者を決める」

「そのあと目次を作る」

と、一つずつ進められます。

Kindle出版は、一日で全部を完成させる作業ではありません。

小さな作業を順番に終わらせていくことで、一冊になります。

ここまで読んで「流れはわかった」と感じた方へ

ここまで、Kindle出版の全体的な流れを紹介してきました。

出版までには、

テーマを決める。

読者を決める。

構成を作る。

原稿を書く。

表紙を作る。

Amazonに登録する。

という工程があります。

ここまで読んで、

「思っていたより、自分にもできそう」

と感じた方もいるかもしれません。

一方で、

「流れはわかったけれど、実際にはどこから手をつければいいのだろう」

と感じている方もいるのではないのでしょうか。

実は、Kindle出版で止まってしまう人の多くは、出版の流れを知らないわけではありません。

インターネットで調べれば、

「テーマを決めましょう」

「目次を作りましょう」

「原稿を書きましょう」

という情報は、すぐに見つかります。

それでも、多くの人が途中で止まります。

なぜなら、本当に必要なのは、作業の名前を知ることではないからです。

必要なのは、

自分の場合は、何を、どこまで、どの順番で進めればいいのか

を具体的に決めることです。

「テーマを決める」だけでも、実際には迷うことが多い

たとえば、

「本のテーマを決めましょう」

と言われても、実際に始めると、さまざまな疑問が出てきます。

- 書きたいことと、求められていることのどちらを選ぶのか
- テーマをどこまで絞ればいいのか
- 自分の経験は、本にするほどの価値があるのか
- 似た本がすでにある場合はどうするのか
- 複数の候補があるとき、何を基準に決めるのか

読者を決めるときも同じです。

「初心者向け」だけでいいのか。

年齢まで決める必要があるのか。

過去の自分を読者にしてもいいのか。

一人に絞ると、売れる範囲が狭くならないのか。

こうした細かな疑問を曖昧にしたまま原稿を書き始めると、途中で方向がわからなくなります。

初心者が止まるのは、文章力がないからではない

Kindle出版に挑戦する方の多くは、
「自分は文章が苦手だから進まない」
と思っています。

ですが、実際には、文章を書く前の段階で止まっていることが少なくありません。

- テーマが広すぎる
- 読者が決まっていない
- 一冊のゴールが見えていない
- 目次の順番に自信がない
- どのくらい書けば完成なのかわからない

この状態では、文章が得意な人でも迷います。

反対に、テーマ、読者、ゴール、目次が整理されていれば、文章に自信がない人でも一つずつ書き進められます。

つまり、最初の一冊で重要なのは、文章力よりも、
迷わず進めるための設計図を持つこと
です。

全体像を知った今、次に必要なのは「自分用の出版計画」です

ここまでの無料部分では、Kindle出版の地図をお見せしました。

しかし、地図を見ただけでは目的地には着きません。

次に必要なのは、

- 自分は今どの段階にいるのか
- 次に何を決めればいいのか
- 一つの工程にどのくらい時間をかけるのか
- どこまでできたら次へ進んでいいのか

を、自分の状況に合わせて決めることです。

ここから先では、単に出版の流れを詳しく説明するだけではありません。

読みながら、自分の出版計画を実際に作れる形にしています。

ここから先で得られること

有料部分では、Kindle出版の8つの工程を、初心者が実際に動けるところまで細かく分解します。

具体的には、次の内容をお伝えします。

1. 各工程で「何を決めれば完了なのか」がわかる

テーマ決め、読者設定、構成、原稿、表紙、Amazon登録。

それぞれの工程について、

「何となく考えた」

ではなく、

「ここまで決まれば、次に進んでいい」

という完成基準を紹介します。

2. 初心者が止まりやすい5つの場所を、先回りして避けられる

Kindle出版では、多くの方が同じ場所で止まります。

- テーマを一つに選べない
- 目次がまとまらない
- 原稿を何度も書き直して進まない
- 表紙作成で止まる
- 出版直前に不安になる

それぞれの原因と、止まったときの対処法を解説します。

3. 最初の一冊では、やらなくてもいいことがわかる

初心者ほど、

「あれも必要なのでは？」

「これも勉強してから始めた方がいいのでは？」

と、作業を増やしてしまいます。

有料部分では、最初の一冊で無理にやらなくてもいいことを整理します。

余計な作業を減らすことで、出版までの距離が一気に短くなります。

4. 30日で出版するための具体的な予定表が手に入る

「いつか出版したい」

では、なかなか進みません。

そこで、

- 1日目から3日目にすること
- 1週間目に決めること
- 原稿を書く期間
- 表紙やAmazon登録に使う日
- 出版前に確認すること

を30日間のスケジュールにしています。

仕事や家事が忙しい方向けに、60日でゆっくり進める考え方も紹介します。

5. 現在地チェックリストで、次の一步がわかる

「自分は今、何が足りていないのか」

を確認できるチェックリストも用意しています。

記事を読んだあとに、

「勉強になった」

で終わるのではなく、

今日から何をすればいいのか

が明確になります。

この先は、こんな方におすすめです

- Kindle出版に興味はあるけれど、何から始めればいいのかわからない
- 調べるほど情報が増えて、逆に動けなくなっている
- 原稿を書き始めたけれど、方向性に自信がない
- 途中で挫折せず、一冊を最後まで完成させたい
- 自分のペースで進められる出版計画がほしい
- 高額な講座を受ける前に、まず全体を整理したい

Kindle出版の情報は、無料でもたくさん見つかります。

ですが、その情報を自分で探し、正しい順番に並べ、行動できる形に整理するには時間がかかります。

この先では、その迷う時間を減らし、初心者が一冊目の出版に集中できるように内容をまとめました。

価格は500円です。

「次に何をすればいいかわからない」

という状態から、

「今日はこれを進めよう」

と動ける状態になることを目指しています。

流れを知るだけで終わらず、実際に一冊を形にしたい方は、このまま続きをご覧ください。

ここから有料部分です

出版までに決めることを、さらに細かく分ける

ここまで、Kindle出版を8つの工程に分けて説明しました。

しかし、実際に始めようとする、

「テーマを決めるとは、具体的に何を決めるの？」

「原稿を書く前に、どこまで準備すればいいの？」

と迷う方もいると思います。

ここからは、各工程で決めることを、さらに細かく整理します。

すべてを一度に進める必要はありません。

今の自分に必要な工程から、一つずつ確認してください。

工程1 本のテーマを決める

この工程では、次の3つを決めます。

1. 何について書くのか

自分の経験、知識、失敗、工夫の中から、テーマを選びます。

テーマを考えるときは、

「自分は何を知っているか」

だけではなく、

「過去の自分は、何を知りたかったか」

と考えると見つけやすくなります。

たとえば、

- 副業を始める前の自分
- 子育てに悩んでいた頃の自分
- 貯金ができなかった頃の自分
- 初めてKindle出版をした頃の自分
- 仕事を辞めるか悩んでいた頃の自分

に、一冊だけ本を渡せるとしたら、どんな内容を伝えたいでしょうか。

その答えは、本のテーマ候補になります。

2. どこまで書くのか

テーマが広すぎると、内容がまとまりません。

たとえば、

「副業について書く」

だけでは、範囲が広すぎます。

副業の種類、始め方、時間管理、集客、税金、失敗談など、入れたい内容が増え続けます。

そこで、

「40代会社員が、平日30分から初めての副業を始める準備」

のように範囲を絞ります。

一冊で伝える悩みは、基本的に一つで構いません。

読者を大きく変える本ではなく、読者を一歩前へ進める本を目指します。

3. 自分の経験を入れられるか

ネットで調べればわかる情報だけではなく、

- 自分はどうしたのか
- どこで迷ったのか
- どんな失敗をしたのか
- 何を変えたのか
- 今なら何を伝えるのか

を入れられるテーマを選びます。

同じテーマの本がすでにあっても、自分の経験まで同じということはありません。

テーマそのものではなく、経験や伝え方に自分らしさが出ます。

この工程の完成基準

次の一文が言えれば、テーマの土台ができています。

この本は、〇〇について書く本です。

例：

この本は、文章が苦手な初心者が、AIを使いながら初めてのKindle本を書く方法について解説する本です。

まだ一文にできない場合は、テーマが広すぎる可能性があります。

工程2 読者を決める

この工程では、次の5つを考えます。

- 年齢
- 仕事や生活状況
- 今困っていること
- これまで試したこと
- どうなりたいか

たとえば、

「Kindle出版初心者」

だけでは十分ではありません。

もう少し具体的にします。

「40代会社員で、副業としてKindle出版に興味があるが、文章に自信がなく、何から始めればいいのかわからない人」

ここまで具体的にすると、

- 専門用語は少なくする
- パソコン操作も丁寧に説明する
- 忙しい人向けの進め方を入れる
- AIの使い方も紹介する

といった内容が見えやすくなります。

読者を決めるときのコツ

実在する一人を思い浮かべると考えやすくなります。

- 過去の自分
- 友人
- お客様
- よく相談してくる人

架空の大人数を考えるより、一人に向けて説明する方が、文章は伝わりやすくなります。

読者を一人に絞ると、

「対象が狭くなり、売れなくなるのでは？」

と不安になるかもしれません。

ですが、読者を一人に絞る目的は、その人にしか売らないことではありません。

文章を具体的にするためです。

一人に伝わる文章は、同じ悩みを持つ他の人にも届きます。

この工程の完成基準

次の文章を埋めてください。

この本は、〇〇に悩んでいる〇〇な人に向けた本です。

例：

この本は、Kindle出版に興味はあるものの、文章に自信がなく、何から始めればいいのかわからない40代会社員に向けた本です。

工程3 読後の変化を決める

読後の変化は、

読む前の状態から、読んだあとの状態への移動

です。

たとえば、

読む前：

何を書けばいいかわからない。

読んだあと：

自分の経験から3つの出版テーマ候補を出せる。

このように、できるだけ具体的にします。

「元気になる」

「人生が変わる」

のような大きすぎる変化ではなく、読者が実感できる変化を考えます。

読後の変化を決めるテンプレート

次の文章に当てはめてください。

この本を読む前の読者は、〇〇の状態です。

この本を読むことで、〇〇できるようになります。

例：

この本を読む前の読者は、Kindle出版に興味はあるものの、何から始めればいいかわからない状態です。

この本を読むことで、自分のテーマと読者を決め、原稿作成を始められるようになります。

この文章が作れると、本に入れる内容と入れない内容を判断しやすくなります。

この工程の完成基準

読者の変化を、一文で説明できれば完了です。

この変化に必要な内容はない内容は、今回の本から外します。

「役に立ちそうだから」という理由だけで内容を増やすと、本の目的がぼやけます。

工程4 タイトルと構成を作る

タイトルは、最初に仮タイトルをつけます。

完成したタイトルでなくても構いません。

仮タイトルがあると、何を書く本なのかを意識しやすくなります。

たとえば、

「初めてのKindle出版」

よりも、

「文章が苦手でもできる はじめてのKindle出版」

の方が、読者が見えやすくなります。

ただし、タイトルを完璧に決めることに時間をかけすぎないでください。

本文を書き終えたあとに、より良い言葉が見つかることもあります。

構成は、本の設計図

構成は、まず章タイトルだけを作ります。

最初から細かい本文を書く必要はありません。

初心者向けのノウハウ本では、次の流れが使いやすいです。

1. 読者の悩み
2. なぜうまくいかないのか
3. 基本的な考え方
4. 具体的な方法
5. 実践手順
6. 注意点
7. 今日からやること

たとえば、貯金の本なら、

- 第1章 なぜお金が残らないのか
- 第2章 最初に見直すべき支出
- 第3章 固定費を減らす方法
- 第4章 無理なく貯める仕組み

第5章 家族で続けるコツ
第6章 失敗しやすい節約方法
第7章 今日から始める3つのこと

という流れになります。

この工程の完成基準

- 仮タイトルがある
- 章タイトルが並んでいる
- 各章で伝える内容を一文で説明できる

ここまでできれば、原稿を書き始めても構いません。

細かな見出しは、書きながら追加できます。

工程5 原稿を書く

原稿は、目次の上から順番に書かなくても構いません。

書きやすい章から始めて大丈夫です。

たとえば、

- 自分の体験談
- 一番伝えたい方法
- よく聞かれる質問
- 失敗した話
- 読者に最初にやってほしいこと

など、書きやすい部分から始めます。

原稿を書くときの基本ルール

- 最初からきれいに書かない
- 一度に一章を書こうとしない
- 見出し単位で分ける
- 話すように書く
- 後から修正する

原稿が進まない人の多くは、最初から完成文を書こうとします。

一文書くたびに、

「この表現でいいかな」

「もっと上手に書けないかな」

と考えると、先へ進めません。

文章は、

出す → 整える → 削る

の順番で作ると進みやすくなります。

文章が出てこないときの質問

書けなくなったら、次の質問に答えてください。

- 自分は最初、どこで困ったか
- そのとき、何を勘違いしていたか
- 何を試したか
- 何がうまくいかなかったか
- 何を変えたら前に進めたか
- 初心者になんて伝えるなら何か

質問に答える形なら、文章が苦手な方でも書きやすくなります。

この工程の完成基準

最初の段階では、文章の美しさではなく、

各章に伝えたい内容が入っていること

を完成基準にします。

誤字脱字や表現は、あとで直せます。

まずは最後まで書き切ることを優先してください。

工程6 原稿と表紙を仕上げる

原稿を書き終えたら、次の順番で確認します。

1回目 内容を確認する

- 話が飛んでいないか

- 同じ説明を繰り返していないか
- 読者の悩みに答えているか
- 自分の経験が入っているか
- 読者が次に何をすればいいかわかるか

2回目 文章を確認する

- 一文が長すぎないか
- 難しい言葉が多くないか
- 主語がわかりにくくないか
- 改行が少なすぎないか
- 同じ語尾が続いていないか

3回目 見た目を確認する

- 見出しがわかりやすいか
- 箇条書きが使われているか
- 目次が正しく表示されるか
- スマートフォンでも読みやすいか

一度にすべて直そうとせず、確認する目的を分けると進めやすくなります。

表紙で最低限確認したい4つのこと

- タイトルが小さく表示されても読める
- 誰向けの本かわかる
- 本の内容とデザインが合っている
- 文字や装飾を入れすぎしていない

Kindle本は、Amazonの一覧画面では小さく表示されます。

パソコンの大きな画面だけで確認せず、スマートフォンサイズでも見てください。

表紙は、きれいであること以上に、

「何の本かわかること」

が大切です。

この工程の完成基準

- 原稿を最低2回読み直した
- スマートフォンで見た目を確認した
- 表紙を小さくしてもタイトルが読める
- 表紙と本の内容に違和感がない

ここまで確認できたら、Amazonへの登録に進めます。

工程7 Amazonに登録する

Amazonに登録する前に、次の素材を用意しておくスムーズです。

- 完成した原稿
- 表紙画像
- 正式なタイトル
- サブタイトル
- 著者名
- 商品説明文
- 検索キーワード
- カテゴリー候補
- 販売価格

登録画面を開いてから考え始めると、途中で止まりやすくなります。

先にメモや文書にまとめておき、登録画面では貼り付けるだけにすると進めやすくなります。

初心者が注意したいこと

- 著者名の表記を統一する
- タイトルと表紙の文字を合わせる
- 原稿ファイルを間違えない
- 販売価格を確認する
- 商品説明を空欄のままにしない
- プレビュー画面を必ず確認する

特に大切なのが、プレビューです。

原稿では問題なく見えていても、Kindle端末では改行や目次が崩れていることがあります。

出版申請前に、最初から最後まで確認してください。

この工程の完成基準

- 必要な情報をすべて入力した
- 原稿と表紙を正しく登録した
- プレビューで表示を確認した
- タイトル、著者名、価格を再確認した

不安だからと何週間も止める必要はありません。

確認項目を一つずつ終わらせ、問題がなければ申請へ進みます。

工程8 出版後に告知する

出版後は、告知の準備をしておきます。

出版してから慌てて文章を作るより、事前に用意しておく方が楽です。

準備するものは、次の通りです。

- 出版報告文
- 本を書いた理由
- 誰に読んでほしいか
- 本の内容紹介
- 表紙画像
- Amazonの商品ページ
- 感想をお願いする文面

告知は、一回だけで終わらせなくても構いません。

角度を変えて、複数回紹介します。

たとえば、

- 1回目: 出版しました
- 2回目: この本を書いた理由
- 3回目: こんな人に読んでほしい
- 4回目: 本の中で一番伝えたいこと
- 5回目: 読者からいただいた感想

同じ本でも、伝え方を変えることで、まだ知らない人に届けられます。

告知で避けたいこと

出版後に、

「本を出しました。買ってください」

だけを繰り返すと、読み手は反応しにくくなります。

読者が知りたいのは、

- なぜこの本を書いたのか
- どんな悩みを持つ人向けなのか
- 読むと何がわかるのか

- 著者自身にどんな経験があったのか

という背景です。

本の内容だけでなく、本が生まれた理由も伝えてください。

初心者が止まりやすい5つの場所

Kindle出版では、多くの初心者が同じような場所で止まります。

あらかじめ知っておけば、

「自分だけが進めない」

と思わずに済みます。

1. テーマを一つに決められない

「あれも書きたい」

「こっちの方が売れそう」

と迷い続けます。

この場合は、最初から完璧なテーマを選ぼうとしないことです。

まずは、

- 自分の経験が多い
- 誰かの役に立ちそう
- 最後まで話せそう

という3つで選びます。

最初の一冊は、人生で一番良いテーマでなくても構いません。

迷ったまま何も書かないより、一つ選んで進める方が多くを学べます。

2. 構成を作らずに書き始める

思いついたことから書くと、途中で話がまとまらなくなります。

同じ内容を別の章で繰り返したり、終わり方がわからなくなったりします。

文章を書く前に、最低でも章タイトルを作ります。

完璧な目次でなくても、行き先が見えているだけで進みやすくなります。

3. 文章をきれいにしすぎる

一文書くたびに修正すると、原稿が進みません。

原稿を書く日と、直す日を分けます。

今日は書く。

明日は直す。

このように作業を分けると、集中しやすくなります。

原稿を書いている途中で、前のページに何度も戻らないことも大切です。

4. 表紙で止まる

デザインが苦手な人は、原稿が完成しても表紙で急に止まります。

表紙は自分で作る以外にも、

- Canvaのテンプレートを使う
- AIでイメージを作る
- デザイナーに依頼する

という方法があります。

すべてを一人でやる必要はありません。

自分でやることと、任せることを分けても大丈夫です。

5. 出版前に不安になる

出版ボタンを押す直前になると、

「本当に出して大丈夫かな」

「間違っていたらどうしよう」

「批判されたらどうしよう」

と不安になります。

これは、多くの人が感じることです。

不安をゼロにしてから出版するのではなく、

確認項目を一つずつ終わらせて、出版できる状態に近づけることが大切です。

不安は気持ちで消すのではなく、確認作業で小さくしていきます。

最初の一冊では、やらなくてもいいこと

初心者ほど、全部を完璧にやろうとします。

しかし、最初の一冊では、次のことを無理にやらなくても構いません。

- 長い本を書く
- 高度なデザインを作る
- 専門用語をたくさん使う
- SNSのフォロワーを増やしてから出版する
- 完璧な販売戦略を作る
- ベストセラーを狙う
- すべての読者を満足させる
- 最初からシリーズ全体を完成させる
- 高額な道具をそろえる

最初の目標は、

一冊を最後まで完成させ、出版の流れを経験すること

です。

一度出版すると、次に改善すべき場所が見えます。

表紙をもう少しわかりやすくしたい。

タイトルをもっと具体的にしたい。

次回は原稿を書く前に読者を絞りたい。

こうした気づきは、実際に一冊出したからこそ得られます。

頭の中だけで考えているより、一冊出した方が学べることは多くあります。

30日で出版を目指すスケジュール

ここでは、30日で一冊の出版を目指す場合の例を紹介します。

毎日長時間作業する必要はありません。

一日30分から60分ほどを想定しています。

1日目から3日目

- 自分の経験を棚卸しする
- テーマ候補を3つ出す
- 一つに絞る

この時点では、タイトルを完璧に決めなくても構いません。

まずは、何について書くかを決めます。

4日目から5日目

- 読者を決める
- 読者の悩みを書き出す
- 読後の変化を決める

過去の自分や、よく相談してくる一人を思い浮かべてください。

6日目から8日目

- 仮タイトルを作る
- 章立てを作る
- 各章で伝える内容を箇条書きにする

この3日間で、本の設計図を作ります。

文章を書くより先に、全体の道筋が見える形にします。

9日目から20日目

- 原稿を書く
- 一日一つから二つの見出しを進める
- 書けない日は音声入力を使う
- 文章の修正は後回しにする

12日間ですべてを書き終えなくても構いません。

大切なのは、毎日少しでも原稿に触れることです。

21日目から24日目

- 原稿を読み直す
- 重複を削る
- 具体例を足す
- 誤字脱字を修正する
- 読者が行動できる内容になっているか確認する

一度で完璧に直そうとせず、内容と文章を分けて確認します。

25日目から27日目

- 表紙を作る
- 商品説明文を作る
- タイトルと表紙を最終確認する
- 告知文を準備する

表紙を自分で作る場合は、時間をかけすぎないように注意します。

28日目

- KDPに登録する
- 原稿と表紙をアップロードする
- プレビューを確認する

登録画面で考え始めないように、必要な文章は事前に用意します。

29日目

- 登録内容を最終確認する
 - タイトル、著者名、価格を確認する
 - 告知文を完成させる
-

30日目

- 出版申請を行う
- 出版後の告知準備を整える

予定通りに進まなくても問題ありません。

30日という数字は、急ぐためのものではなく、作業を細かく分けるための目安です。

60日でゆっくり進めてもいい

仕事や家事が忙しい方は、30日でなくても構いません。

60日かけて、

- 平日は15分
- 休日は1時間
- 一週間に一章
- 予定が崩れた週は無理に取り返さない

という進め方でも大丈夫です。

重要なのは、短期間で終わらせることではありません。

途中でやめずに、少しずつ進めることです。

出版にかかる期間は、人によって違います。

他の人と比べず、自分が続けられるペースを選んでください。

自分の現在地を確認するチェックリスト

今、自分がどこまで進んでいるかを確認してみましょう。

企画

- ☐ 本のテーマが決まっている
- ☐ 読者が具体的に決まっている
- ☐ 読者の悩みがわかっている
- ☐ 読後の変化を一文で説明できる
- ☐ 自分の経験を入れられる

タイトル・構成

- ☐ 仮タイトルがある
- ☐ 章立てができている
- ☐ 各章で伝える内容が決まっている
- ☐ 一冊の範囲が広すぎない
- ☐ 読者が進みやすい順番になっている

原稿

- 原稿を書き始めている
- 自分の経験が入っている
- 具体例がある
- 読者が実践できる内容がある
- 最後まで書く予定が立っている

仕上げ

- 原稿を読み直した
- 誤字脱字を確認した
- 重複した内容を削った
- 表紙ができている
- スマートフォンで読みやすい
- 表紙を小さくしてもタイトルが読める

出版準備

- KDPアカウントを用意した
- 商品説明文を作った
- キーワードとカテゴリーを考えた
- 販売価格を決めた
- 原稿をプレビューで確認した
- 告知文を用意した

すべてにチェックが入ってなくても構いません。

チェックが入っていない場所が、次に取り組む作業です。

今日やること

この記事を読んだあと、次の3つを実行してください。

1. 自分が今どの工程にいるか確認する

まだテーマが決まっていないのか。

すでに原稿を書き始めているのか。

原稿は完成していて、表紙で止まっているのか。

まず、現在地を確認します。

2. 次に行う作業を一つだけ決める

たとえば、

「今日は読者を一人に絞る」

「明日は目次を作る」

「今週中に第1章を書く」

というように、次の行動を小さく決めます。

「出版作業を進める」

では、大きすぎます。

30分以内でできる作業に分けてください。

3. 次に作業する日時を決める

やることを決めても、いつ行うか決まっていなければ後回しになります。

「時間ができたらやる」

ではなく、

「明日の朝7時30分から30分」

「土曜日の午前中に目次を作る」

のように予定へ入れます。

出版は、大きな作業に見えます。

ですが、実際には、小さな作業の積み重ねです。

最後に

Kindle出版で途中で止まってしまう人の多くは、能力がないわけではありません。

次に何をすればいいのかわからなくなっているだけです。

出版までの流れを知り、作業を細かく分ければ、一つずつ進められます。

テーマを決める。

読者を決める。

構成を作る。

原稿を書く。

表紙を作る。

Amazonに登録する。

一つひとつは、決して特別な作業ではありません。

大切なのは、最初からすべてを完璧にやろうとしないことです。

今いる場所を確認し、次に行う作業を一つ決める。

その繰り返しで、一冊の出版につながります。

この記事を読み終えたら、まず現在地チェックリストを確認し、次の作業を一つだけ予定に入れてみてください。

「いつか出版したい」

という思いを、

「今日、ここから始める」

に変えることが、最初の一步です。

次回は、本の土台になる「出版テーマの見つけ方」を、さらに詳しく解説します。

自分の経験、失敗、仕事、趣味の中から、読者に求められるテーマを見つける方法を紹介します。